

あかるく かしこく たくましく

令和6年4月10日 No. 2 文責：校長 佐野紳二

大切な「い」「の」「ち」を自分で守れる子どもに

先週末の4月6日（土）から4月15日までの10日間、「子どもが安全に通行できる道路交通環境の確保と安全な横断方法の実践」「歩行者優先意識の徹底と『思いやり・ゆずり合い』運転の励行」「自転車・電動キックボード等利用時のヘルメット着用と交通ルールの遵守」の3つを重点にして、春の全国交通安全運動が実施されています。本校でも8日（月）から今週1週間、PTA保体補導部の皆様にご協力をいただき、通学路の数カ所で安全指導を行っています。

保体補導部の皆様には早朝よりご協力をいただき、ありがとうございます。

子どもたちが健やかに成長していくために、学校においても、さまざまな場面で子どもたちの安全・安心を確保し、かけがえのない一人一人の命を守ることは何よりも大切なことだと考えています。特に交通事故の可能性のある子どもたちの登下校時の安全確保は、学校と家庭、地域が一体となり取り組んでいかなければならないことだと思えます。先日行われた入学式の校長の話でも、1年生に対して「命を大切にする」という話をさせていただきました。入学式の校長の話は、本校ホームページの「学校だより>令和6年度>保護者の皆様へ>学校通信 No.00」で見ることができます。



本校では、以前から見守り隊の皆様が子どもたちの登下校時に交差点や横断歩道のある場所に立って交通安全指導を行ってくださっています。先日の入学式の後にも、今年度の見守り隊の出発式が行われ、新1年生に記念品がプレゼントされました。こうして、地域の皆様に子どもたちの安全確保にご協力いただけることはとてもありがたいことだと常々感じています。ぜひ、子どもたちにも、こうして地域の方々が毎日見守ってくださっていることが「当たり前のこと」ではないことを感じて、きちんと「おはようございます」「ありがとうございます」と感謝の気持ちを伝えられるようになってほしいと思います。

春の全国交通安全運動の重点の最初に「子どもが安全に通行できる道路交通環境の確保と安全な横断方法の実践」が挙げられています。警察庁交通局が令和元年度から5年間の調査結果をまとめた資料を見ると、小学生の事故は2年生が最も多く、次いで3年生、1年生と低学年の子どもが事故に遭うことが多い傾向にあります。また、月別の事故の件数を見ると6月が最も多く、4月から6月にかけて増加する傾向が見られます。こうした統計結果から、ちょっと慣れてきた頃が最も交通事故に遭いやすい傾向があると言えるのではないかと思います。

次に、時間帯別では午後3時から5時までの時間帯が、交通事故が最も多く、登下校時（特に下校時）と遊びに行ったときの事故が多くなっています。法令違反別での交通事故の件数を見ると、法令違反なしで事故に遭っている子どもが最も多く（いわゆる「もらい事故」です）なっていますが、次に多いのが「飛出し」そして「横断違反」となっています。

参考) https://www.npa.go.jp/news/release/2024/R6harunoundou_koutsuu_jikobunseki.pdf

これらのことをまとめると、交通事故に遭わないために、小学生の子どもたちに特に注意してほしいことが見えてきます。

- 特に学校に慣れてきたゴールデンウィーク明けくらいから6月まで、注意が必要。
- 登校時よりも学校から帰るとき、帰ってから出かけるときに車に気をつける。
- 道路への飛出しや横断歩道や信号がない場所での道路の横断をしない。
- 自分自身の目で、車が来ていないかどうかをしっかりと確かめる。

私も毎朝、見守り隊の方と一緒にウエルシア前の横断歩道の所に立って子どもたちの登校のようすを見守っていますが、中には車が来ているかどうかを確認せずに横断歩道を渡ろうとする子がいて、ひやっとすることがあります。また、多くのドライバーの方は子どもの姿を見かけると停車してくれますが、中には私たちが横断旗を差し出しているのを避けて停車せずに通り過ぎるドライバーも極まれにいます。

ぜひ、子どもたちには自分で安全を確認して道路を歩いたり自転車に乗ったりできるようになってほしいと思います。学校でも、特に年度の初めの時期には子どもたちに念入りに指導を行います。ご家庭でも交通安全について話題にしていただけるとありがたいです。

この春小学校に入ったひとり息子を、わたしは、今朝も急がせる。真新しい黄色い帽子をかぶせ、ランドセルを背負わせ、のんびり屋の彼の手をひっぱるようにして一緒に玄関を出る。

慣れるまで暫く学校までついて行く約束だが、わたし自身が小学生の母としてのペースを、まだ掴めていない。

急ぎ足のわたしとは裏腹に、息子はきょろきょろと興味深そうにまわりを見ながら、手をひかれて通学路を歩く。何かを発見して立ち止まるたび、ランドセルの中の筆箱が、ゴトンと鳴る。

通学路の交差点では、シニアボランティアの男性が旗振りをしながら、子ども達を見守ってくれている。

「おはようございます～」

まっ先に息子が元気にあいさつをする。

「はい、いってらっしゃい」

と、男性はにこにこ旗を振る。わたしは深々と会釈をしながらも、学校へと急ぐのだった。



息子を送った帰り道、いつもはもういない旗振りの男性が立っていた。

「お母さん。もう5分だけ、早く出られるといいですね」

男性は、いつもの笑顔で続けた。

「子どもは、河原の鳥や土に這ってる虫を、一つずつ見つけながら行きたいもんなんです。目的地に無駄なく着くなんて、少しも頭がないからねえ」

その言葉は、さわやかな風のようにわたしの中を吹き抜けた。旗を後ろ手に去っていく男性に向かってわたしは、

「ありがとう、ございますっ！」

と、子どものように元気よく答えた。